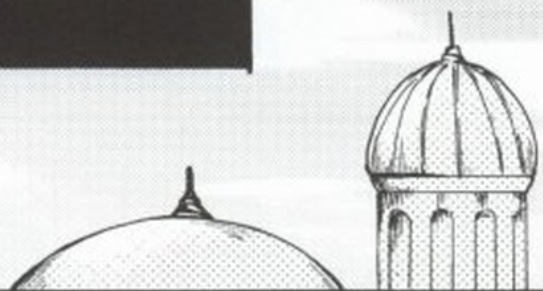
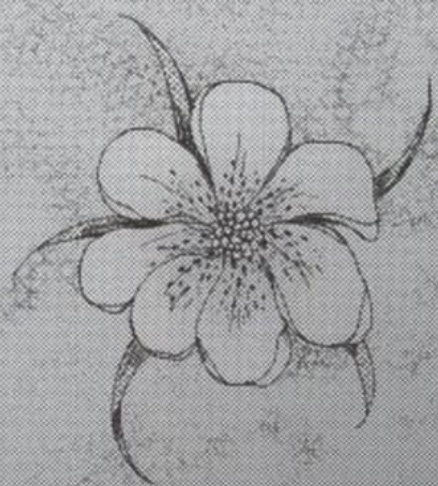




花片にまろい
愛をかさねて

Free!fanbook Makoto X Rin R18



こんにちは

やあ

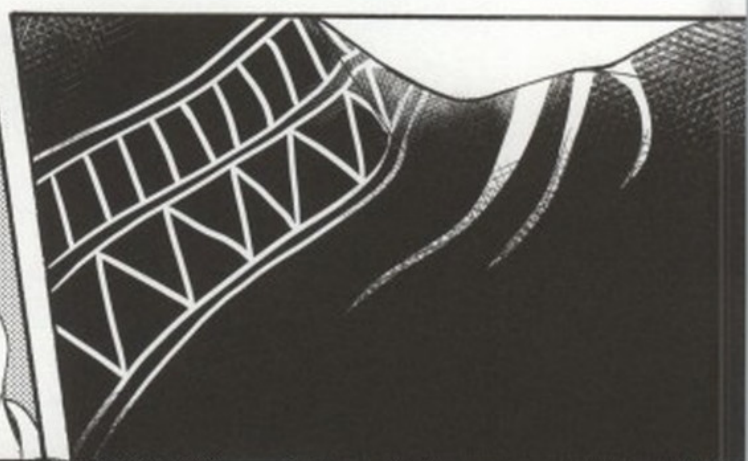
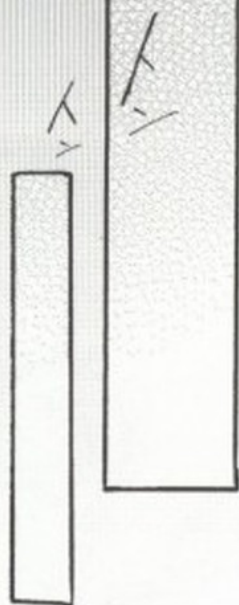








フ



真琴!

千

十

三



り

あ!

ニヤニヤ

んっ



うわっ



知ってる

ごめんな
なかな
来られなくて

忙しかった
んだ

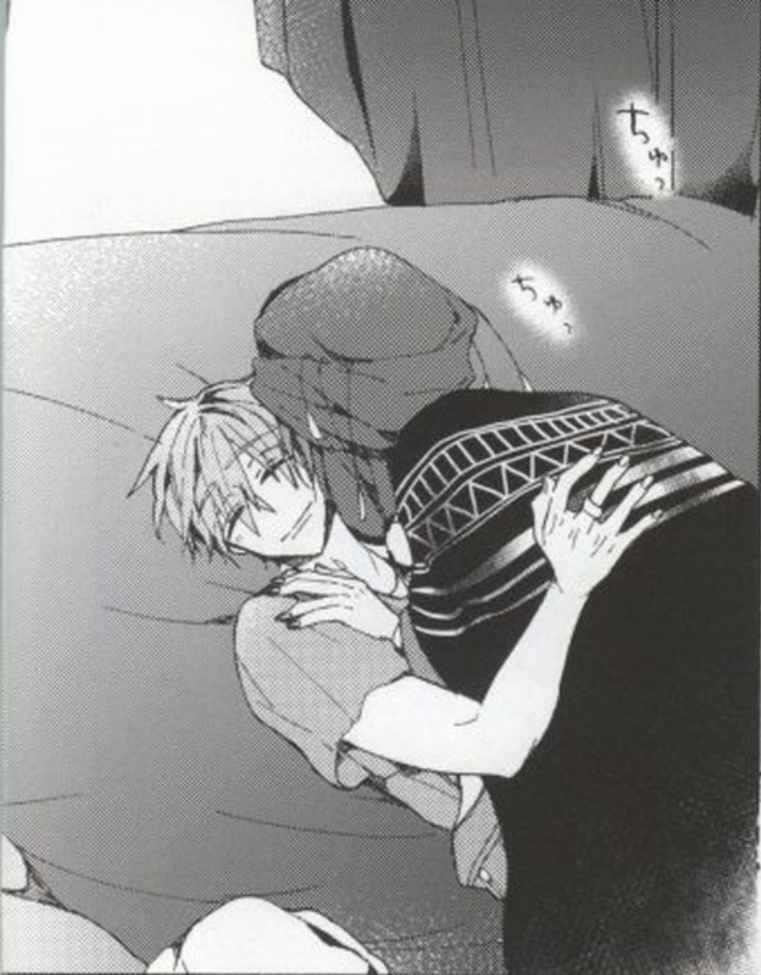
お前ん家の評判は
耳に入ってきてる
からな

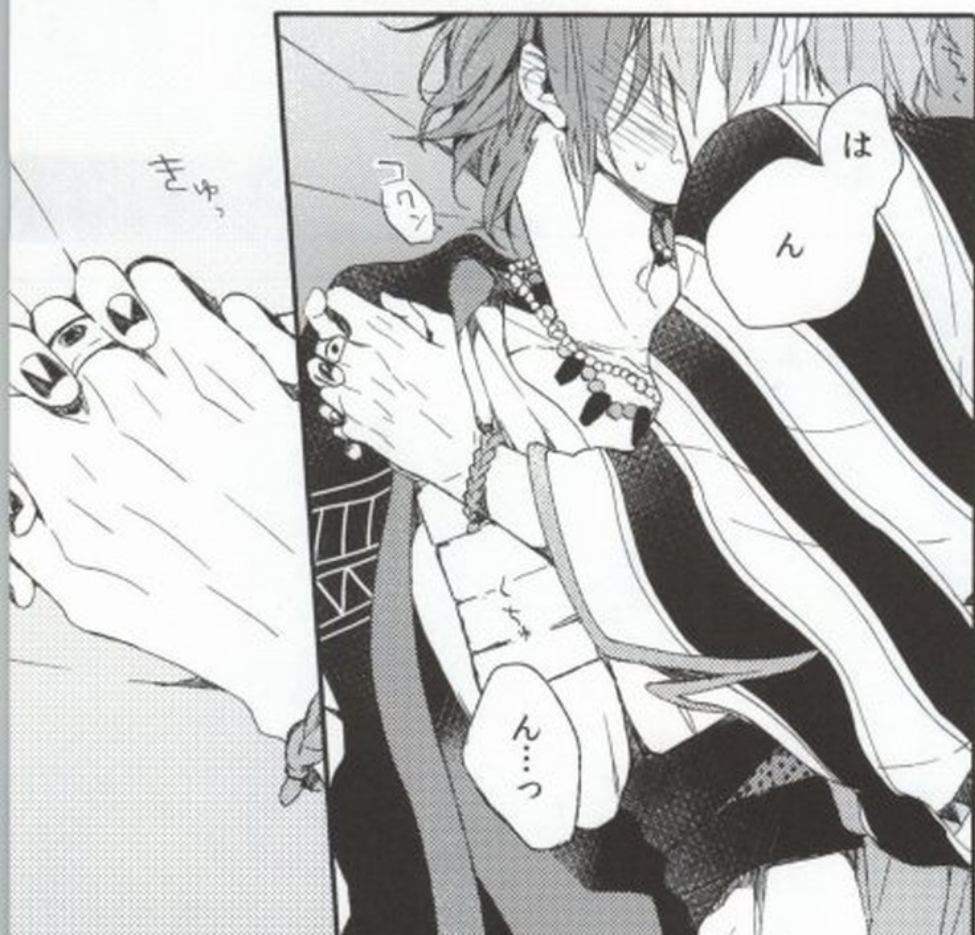
本当？



カスカス
——久しぶり

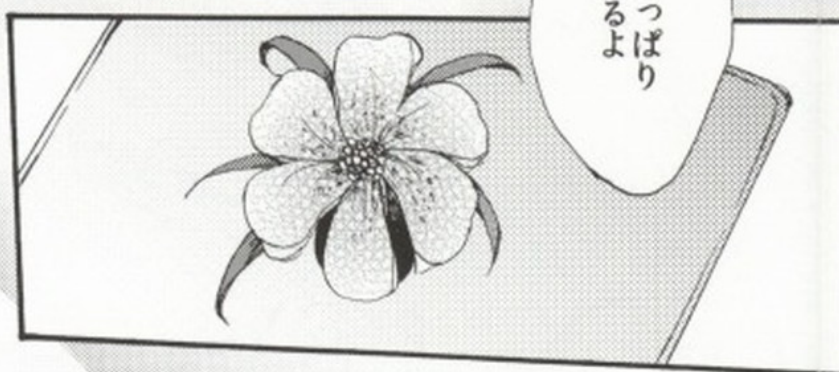
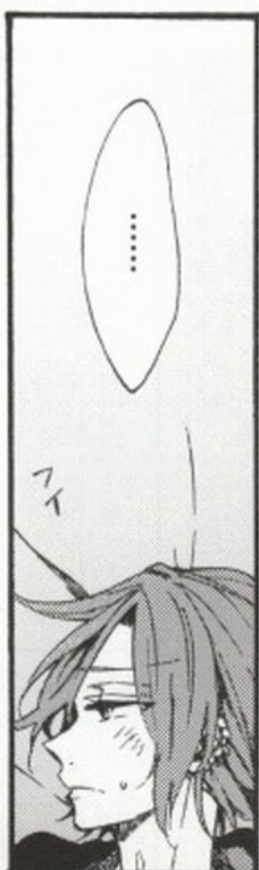
おう













凛との出会いは
数年前



俺の暮らす
町の領主の息子で、
その後継ぎであった凛が

町での生活を学ぶため
近所の家で下宿を始めたのが
きっかけだった



明るくて
人懐こくて
積極的で

凛は
あっという間に
人気者になった



俺は

そんな凛のことが
好きだった



おーっ



男同士で

領主の子と
商人の子

お婆さんに
頼まれた布
探すんだろ？

手伝う

うん

えーっと…

普通じゃないのは
子供ながらに
わかっていた

—とはいえ

俺この匂い
好きだ

本当？

よかった

いーえ

だから俺は
その気持ちを
ひた隠しにしていた

そう

ありがとう、
凛くん

言わなければ

知られることもない

はい

ありがとう
助かったわ

松岡くんが
手伝ってくれたんだ

3か月

凛は町で暮らして

惜しまれながら
屋敷に帰っていった

誰にも
知られる事なく
そこで幕を閉じた

俺の初恋は

真琴

…はずだった



領主様
からの

何かしら…



どうしたの？

お手紙

真琴宛
なんだけど—

本格的に
家を手伝
うに
しよう
と
な
ら
な
い
し
て



久しぶりだな

真琴



よお



…失礼します



真琴

お前ん家
布屋だったよな

？

そうだ
けど…

繁盛
してるか？

おかげ
さまで…

何よりだ

この羽織を
新しくしてえんだ

…用件なんだ
けどな

生地を選定から
仕立てまで

お前の家に
頼みたい

え…!?

あ、有り難い
話だけど…

でもちゃんと
お抱えの店が
あるだろ？

屋敷のものは
そつちに
出してる

今回だけ
特別だ

でも…

真琴、



その時、

！
…



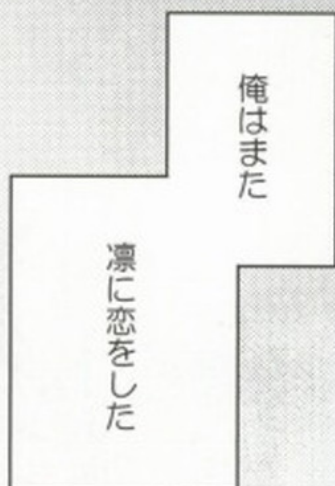
…頼む



何故か
その瞳を
揺れた



…わかった



俺はまた

凛に恋をした

それからしばらく
凜の屋敷に通う
日が続いた

名目は生地選びと
仕立ての打ち合わせ
だった——けど、

話題は
仕事のことだけに
止まるはずもなく

お互いのことや
昔のこと……
とにかく
いろんな話をして

そんな凜との時間が
くすぐったくて
嬉しかった

ほっかり空いていた
空白を
埋めていくような



すごく
似合ってる

...

この匂いだ

え？

お前ん家の
香の香り

忘れたこと
なかった

キュ

お前の家は
幸せな家族の
象徴で

その
真ん中で

いつも笑ってる
お前見るのが
好きだった

...俺にとって


お前ん家いくと
いつも
この匂いしてて

いつか






先代の領主であった父を
早くに亡くし



若くして
その後を継いだ

そんな凛を
支えてくれるはずの
人達も


凛にとっては
自らの手で守らなければ
ならない大切な存在で



凛が領主になって
町の生活は
いっそうよくなった

それなのに

大事なものを
たくさん抱えて



その全てを
幸せにするために
奔走した凛は

ずっと
ひとりぼっちだった

…

真琴？

何だよ…

…香りなんて

水にさらせば
落ちるのに

そんなのが
今までの褒美なんて
納得できない

…もっと
贅沢言つてよ

俺達みんな

凛のおかげで
幸せなんだ

だから凛も

もっと幸せに
なるべきだ



おやじに
叱られちまう



…あんまり
わがまま言うとう



…その時は

俺が一緒に
謝る



何が欲しいの





砂漠にひとりぼっちで
まっすぐに咲いた
あの花を見た時

——
お前



まるで昔の
凍みたいたと
思った

だから

≡
≡
≡

正しかったのかは
わからない



それをこうして
摘み取ってしまうことが

っあ

お前余所見
してんだろ…っ



あ



お、お

お…い

真琴、



でも—

あ

ず、ず

ギッ

ず、ず

は…



…いめ、

凜のこと
考えてて…

はあ…?



んあ…っ

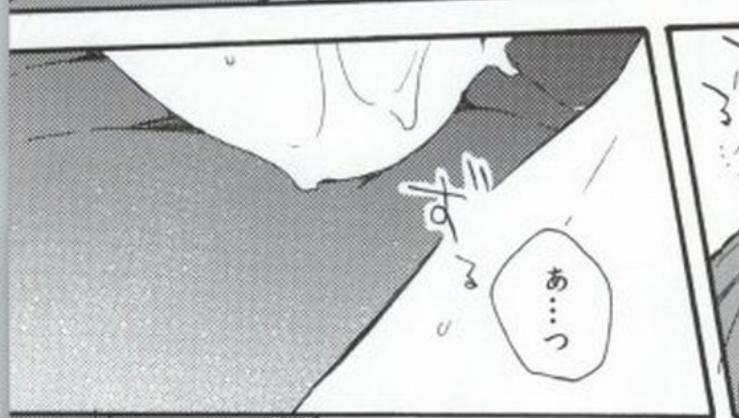
あ、あ

っ



っあ

















これどれくらい
もつのかな

さーな



でもあんまり
永くは無理だろ

そう
だよね…

摘まない方が
よかったのかな

…いや

いいんじゃないの

誰にも
気付かれず
ひとりです
咲いてるよ
砂漠では

見てくれる奴が
いる方が
寂しくねえだろ

凛…

…そっか

そうだと
いいんだけど

な真琴

ん？

こいつは俺が
ちゃんと面倒見る

…だから

約束しろよ

なに？



次はこいつが

枯れちまう前に
会いに来い

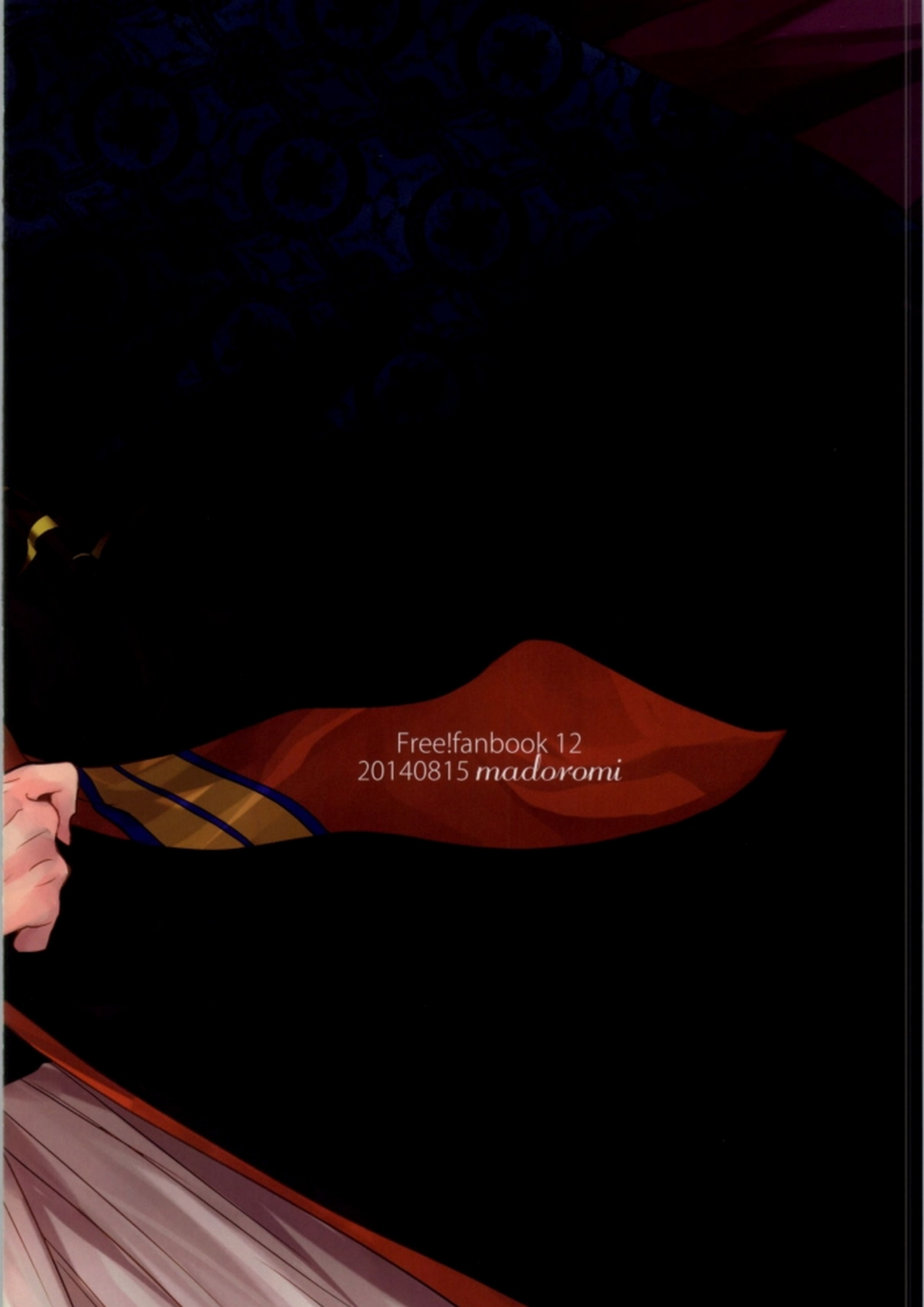


…うん

わかった



約束するよ

A hand is shown on the left side of the frame, gripping a banner. The banner is primarily red with gold diagonal stripes and a blue border. The background is a dark blue field with a repeating circular floral pattern. In the bottom left corner, there is a portion of a light-colored, possibly white or light purple, fabric or garment.

Free!fanbook 12
20140815 *madoromi*